

iD4 | 2in | 2out [USB 3.0対応] オーディオインターフェイス

Manual v1.3

AUDIANT

audient iD4mkIIをお買い上げいただき、誠に有難うございます。

iD4mkIIは、ASP8024 Heritage Editionコンソールのマイク・プリアンプ、独立チャンネルのJFET D.I、最高品位のAD/DAコンバーター、Audient独自のScroll Control、iD ファミリーの『音質基準』をそのままに、バス・パワードで実現しました。

“すべてのクリエイター、シンガーソングライターが、最初の段階から「リリース・クオリティ」でどこでも録音を始められること。それが iD14mkIIをデザインするに至ったバックグラウンドでした。”

— Audient テクニカル・ディレクター Tom Waterman氏

iD14mkIIは、音楽やサウンドメイキングに携わるクリエイターが、必要とする全ての機能をコンパクトかつ、エレガントにまとめた、完全プロ仕様の『Creator’s Box』です。

主な特長：

- 1 x Audient コンソールマイク・プリアンプ
- 高性能AD/DA コンバーター
- 1 x JFETインストルメント入力
- 2 x ライン出力
- デュアルヘッドフォン出力
- iDスクロールコントロール
- スピーカーon/offボタン
- モニターミックス&パン
- ファンタム電源
- USB 3.0対応
- iOS対応
- 24-bit/96kHz
- 全メタルシャーシ
- Free ソフトウェア&プラグイン

パッケージの内容：

- iD4mkII本体
- USB-C to USB-C cable
- Quick Start Guide

ソフトウェア・ダウンロードURL

<https://audient.com/products/audio-interfaces/id4/downloads/>

日本語マニュアル・ダウンロードURL

<https://allaccess.co.jp/audient/id14mk2/>



もくじ

安全にご使用頂くための注意	4	ジェネラルオペレーション：	
iD4mkIIの概要	6	サンプルレート	22
		バッファサイズとレイテンシー	22
		macOSの場合	23
		iOSの場合	23
		Windowsの場合	23
		オーディオ・ループバック	24
		DAW セットアップ：	
		Logic Proの設定	27
		Pro Toolsの設定	28
		Cubase/Nuendoの設定	29
		Ableton Liveの設定	30
		トラブルシューティング & FAQ	31
		製品仕様	33
		品質保証に関して	34
		サイズ・重量	36
インストール方法：			
macOSの場合	9		
Windowsの場合	10		
iOSのインストール	12		
製品登録とファームウェアアップデート	13		
ハードウェアについて：	15		
マイクプリアンプ&ライン入力	16		
楽器入力	17		
スピーカー出力	17		
ヘッドフォン出力	17		
モニターコントロール	18		
ボリュームエンコーダー	18		
Monitor Mix ノブ	18		
モニターパン	19		
MUTE スピーカーボタン	19		
iD ボタン	20		
メーター	20		
ステータス LED	20		
Kensington ロック	20		

安全にご使用頂くための注意


付属のUSBケーブルから機器に給電する前に、マニュアル中のインストラクションや注意点をよくお読みください。

本機は高電圧で動作はしませんが、電気ショックや火災が起きないように安全な使用法に忠実に従ってください。

故障と思われるような症状が発生しても、本体を開けないでください。

その際はまずaudientのサポート：audient@allaccess.co.jpにコンタクトしてください。

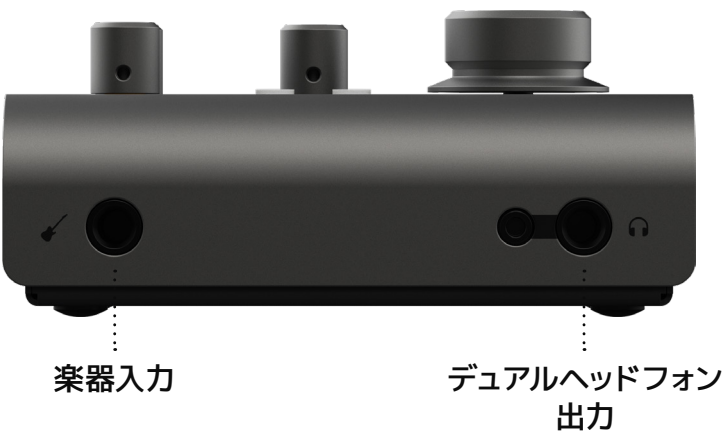
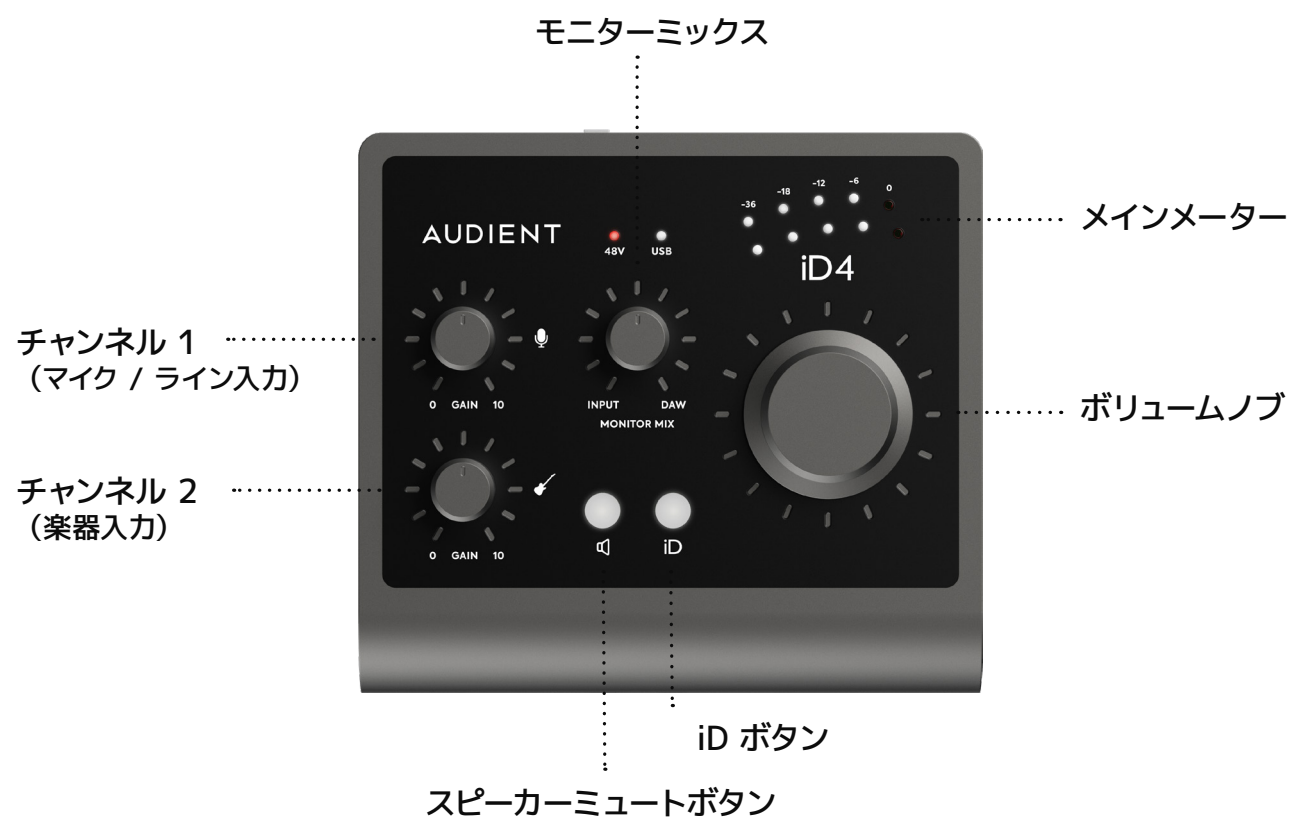
audient@allaccess.co.jp

- 
1. マニュアルをよく読んでください。
 2. マニュアルを保管しましょう。
 3. 『注意や警告』を守りましょう。
 4. インストラクションには従ってください。
 5. 水の近くや湿気の多い場所で使用しないでください。
 6. クリーニングは乾いた布だけ使用してください。
 7. ヒーター、ストーブやアンプなど高温を発する場所や機材の上で使用しないでください。
 8. 本機に接続されているケーブル類にご注意ください。
 9. 本機と使用するアクセサリ等は、メーカーが認可したものを使用してください。
 10. 近くで雷が発生していたり、長い期間本機を使用しない時は、コンピューターの電源をお切りください。本機とコンピューターとの接続ケーブルも外してください。
 11. 水分がかかったり、故障だと思われる時に本機を開けないでください。製品の修理は認可されたサービス機関でのみ修理可能です。
その際はまずサポート：audient@allaccess.co.jpにコンタクトしてください。

WARNING

感電などの事故が発生しないように、水の近くや湿気の多い場所では本機を使用しないでください。

iD4mkIIの概要



インストール方法

mac OSの場合

動作環境

macOS 10.11.6 (El Capitan) 以降

CPU: Intel CPU または Apple Silicon CPU

メモリ: 1GB RAM 以上

セットアップ

1. iD4mkIIの接続

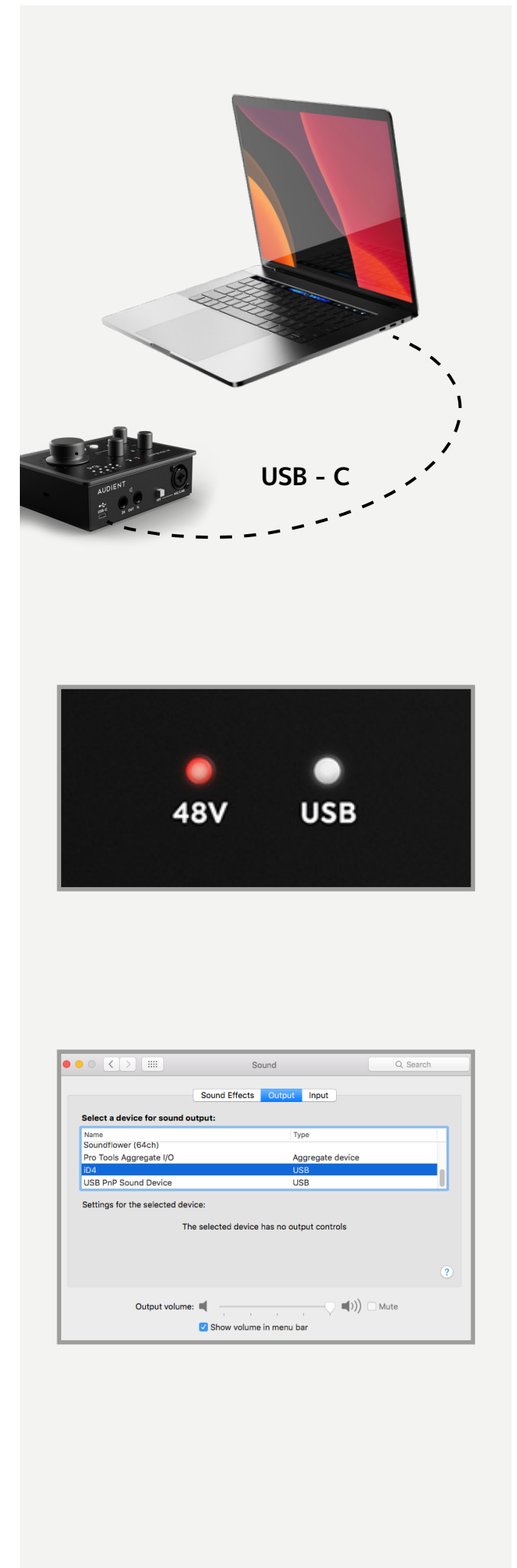
付属のUSB-Cケーブルで、iD4mkIIをMacのUSBポートに接続してください。

2. 接続の確認

接続が確立されるとホワイトUSB LEDが点灯します。USB LEDが点灯しない場合は接続を確認してください。解決できない場合はサポートまでご連絡ください。

3. オーディオデバイス設定

システム環境設定>サウンド>出力でiD4をオーディオデバイスに選択してください。同様にお使いになるDAWソフトウェアでもiD4mkIIを選択してください。DAWに関する設定は後のセクションをご覧ください。



Windowsの場合

動作環境

Windows 10 以降 (32bit or 64bit)
CPU: Intel Core 2 @ 1.6 GHz、またはAMD
メモリ: 1 GB RAM 以上

セットアップ

1. ドライバーのダウンロード

最新バージョンのiD Windows Driverを
下記URLからダウンロードしてください。

<https://audient.com/products/audio-interfaces/id4/downloads/>

2. iD4mkIIの接続

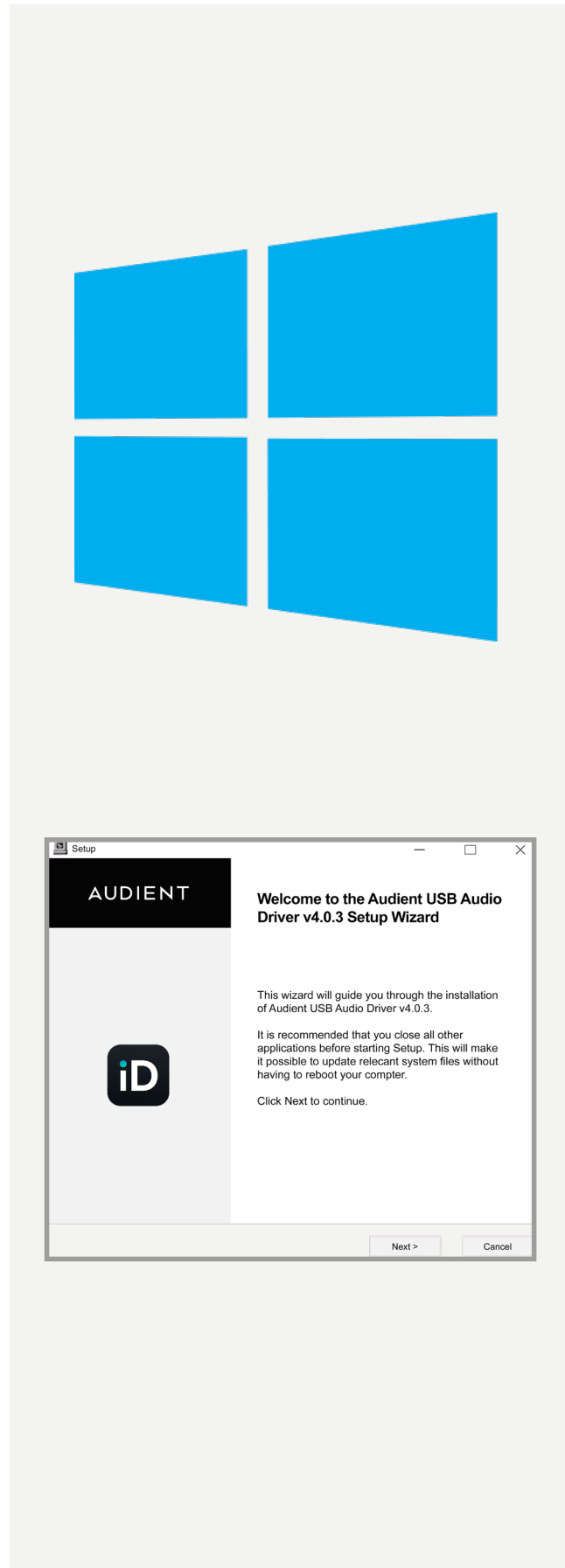
付属のUSBケーブルで、iD4mkIIをUSBポート
に接続してください。

3. iDドライバーセットアップ

インストーラーをダブルクリックして、インス
トラクションに従ってインストールします。

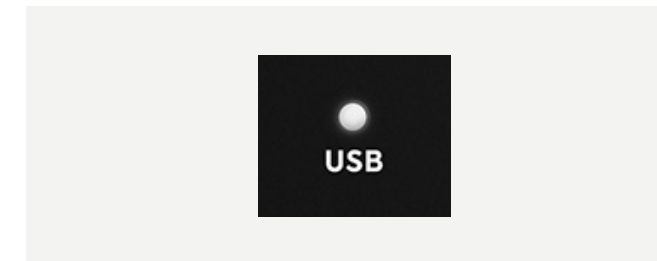
4. PCの再起動

PCを再起動して、全てのドライバーが正常に
インストールされたことを確認してください。



5. 接続の確認

接続が確立されるとホワイトUSB LEDが点灯し
ます。



USB LEDが点灯しない場合は接続を確認してく
ださい。解決できない場合はサポートまでご連
絡ください。

6. iD4mkIIをオーディオデバイスに設定する

iD4mkIIをデフォルトオーディオデバイスに指定
し、「規定値に設定」を選びます。

設定 > コントロールパネル > ハードウェアとサ
ウンド > サウンド の順に行います。

(Windows 10の場合は設定からシステム>サ
ウンドで設定できます。)

使用するDAW内でも、iD4がオーディオデバイス
として選ばれていることを確認してください。

このセッティングは通常、オーディオセッティ
ング、またはプリファレンスメニューで行えます。

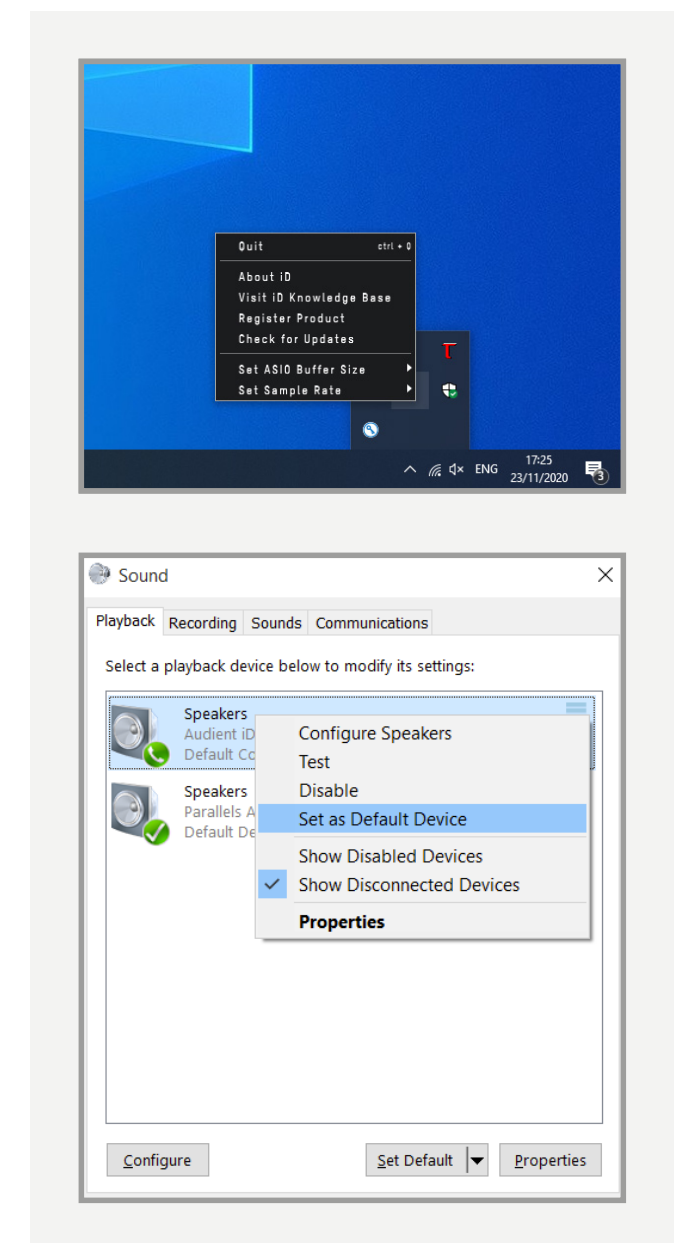
異なる DAWの設定に関しては、後のセクション
をご覧ください。

iD アイコン



iDアプリがインストールされると、iDアイコンが
Windowsシステムトレイに現れます。
アイコンを右クリックすると、サンプルレート、
バッファサイズ、レイテンシーセッティングを
変更することができます。

設定の説明については[22ページ](#)をご覧ください。



iOSのインストール

iOSでの使用には次のスペックが必要です。

iOS6 以降のデバイス
Apple ライトニングポート
USB-Cポート

※ iOSまたはiPadOSの使用時にはドライバーは必要ありません。

ライトニングポートのデバイス

iD4をLightningポート搭載のiOSデバイスに接続するには、Appleカメラ接続キットとアクティブUSBハブが必要です。

USBハブをカメラアダプタキットのUSBポートに接続し、キットをiOSデバイスに接続します（iOSデバイスを充電するには、USBハブとカメラキットのポートに充電ケーブルを接続することもできます）。

次に、iD4をアクティブUSBハブのUSBポートに接続します。

USB-C Portのデバイス

iD4mkIIは、iOSデバイスとUSB-C - USBケーブルでダイレクトに接続できます。
iD4mkIIを駆動するための電源は、USB-Cポートから供給されます。

1. iD4とハブを接続する。

アクティブUSBハブとiD4mkIIを付属ケーブルで接続します。

2. iOS デバイスを接続する

USBハブをカメラアダプターキットのUSBポートに接続し、キットから使用するiOSデバイスへ接続します。（iOSデバイスが充電されます。）

3. 接続チェック

iOSデバイスが接続され電源がオンになると、iD4mkIIのUSB LEDが点灯します。

製品登録とファームウェアアップデート

製品登録

iD4mkIIは主要なオーディオソフトウェアと互換性があります。また、すぐにレコーディングが始められるソフトウェアやサービスもバンドルされています。

<https://audient.com/ARC/>

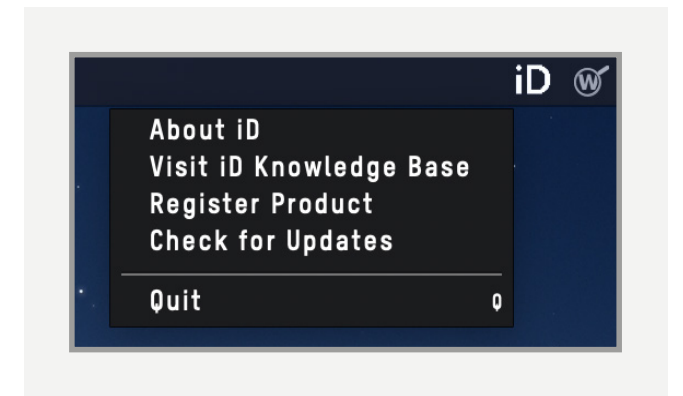
にアクセスし、ぜひ登録してください。

ここで製品登録（シリアルナンバー、本体の下部にある4桁のピン）し、アカウントを作成すると、確認メールが届きます。
アカウントを実証されると登録が完了します。

これで、パワフルでクリエイティブなツールのソフトウェアやサービスが入手できます。

ファームウェアアップデート

ファームウェアのアップデートが告知されたら、iD4mkIIのファームウェアの変更を行きましょう。
このアップデートはiDアプリで行います。

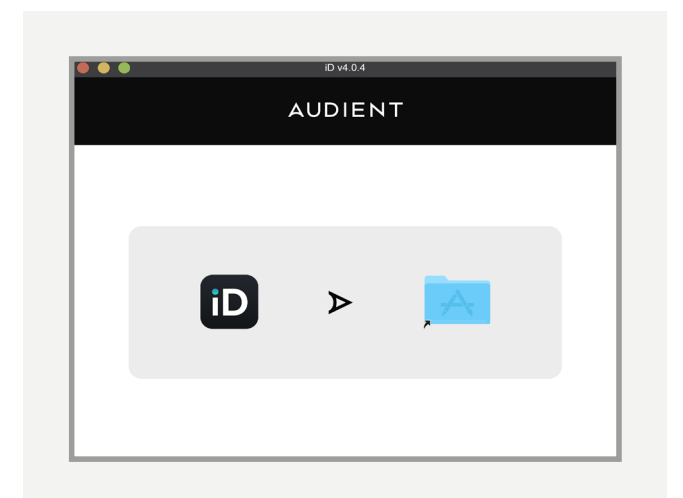


macOS

iD4mkIIをmacOSで使用する場合、ドライバーは必要ありませんが、このアップデートにはiDアプリが必要です。下記のURLからiDアプリをダウンロードしてください。

<https://audient.com/products/audio-interfaces/id4/downloads/>

ダウンロードしたら、このアプリをアプリケーションフォルダーにドラッグして開きます。新たなファームウェアがリリースされたら、インストールして使いましょう。通常の動作にはiDアプリは必要ありません。



製品登録とファームウェアアップデート

Windows

Windows OSでの使用時は、必ずiDアプリが必要です。
アップデートは、システムトレイ中のiDアイコンを右クリックし、「Check for Updates」をクリックします。

iOS

iOSプラットフォームでのアップデートはできません。
iD4mkIIをMacまたはWindowsコンピュータに繋ぎ、ファームウェアのアップデートを行います。

オフライン コンピューター

コンピュータがインターネットに接続されていない場合は、サポートにお問い合わせください。
ファームウェアをオフラインで更新する方法についてアドバイスをいたします。

support@audient.com
audient@allaccess.co.jp

ハードウェアについて

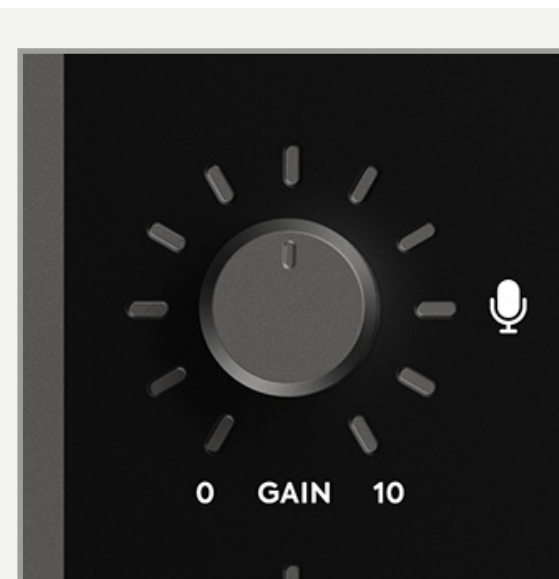
マイクプリアンプ&ライン入力

iD4mkIIのアナログ入力には、フラッグシップ・コンソール直系のマイク・プリアンプを採用しました。

ディスクリートクラスA回路を採用し、低ノイズで極めて歪みの少ないサウンドを生み出します。その音質はスピード感に溢れ、オープンで正確なディティールを再現できることが特徴です。

入力端子にはマイク/ラインのどちらにも対応できるAmphenol™製のXLR/TRS コンボ・ジャックを採用しました。

コンデンサーマイクを使用する際は、+48Vスイッチを押してファンタム電源が供給されるようにします。（+48VのLEDが点灯します。）



マイクプリアンプの仕様

- 58dB のクリーン・ゲイン
- 48V ファンタム電源 (チャンネル毎/10mA)
- > 2.8k Ω 入力インピーダンス

マイクの種類に関わらず、パンチのあるサウンドが得られるインピーダンスに設定しました。



楽器入力

iD4は、ユニットの前面から簡単にアクセスできるチャンネル2で、クラス AのJFET楽器 (D.I) 入力可以使用できます。

D.I入力端子は、JFET採用のクラスAディスクリート・テザインの楽器用入力です。このDI入力には、エレキギター、エレアコやシンセサイザーが入力できます。

JFET回路は、クラシックな真空管アンプの入力部分をベースにデザインされており、リッチなハーモニクスを含んだサウンドを生み出します。



スピーカー出力

iD4mkIIのステレオスピーカー出力 (TRSバランス接続) です。出力は高いクオリティのDAC (デジタル→アナログコンバーター) を採用しており、クリーンで細部まで厳密なオーディオ信号をアクティブスピーカーまで届けてくれます。



ヘッドフォン出力

前面に設けられたヘッドフォン出力端子は、接続するヘッドフォンインピーダンスの影響を受けにくい、ディスクリート高電流型アンプを搭載しています。

標準プラグとステレオミニジャックの両方を備えており、同信号を2基のヘッドフォンへ同時駆動することが可能です。

また、スピーカーとの同時モニタリング、アーティストヘッドフォンミックスも可能です。

モニターコントロール

ボリュームエンコーダー

ボリュームエンコーダーを使用すると、スピーカーとヘッドホン出力の両方の音量を調整できます。エンコーダーを押すと音量が15dB下がり、音量が小さくなります。リスニングレベルを落とさずにスピーカー/ヘッドホンの出力レベルを素早く下げたい場合に便利です。音量レベルを調整すると、メインメーターの表示が変わり、設定レベルが表示され、その後、出力レベルに戻ります。

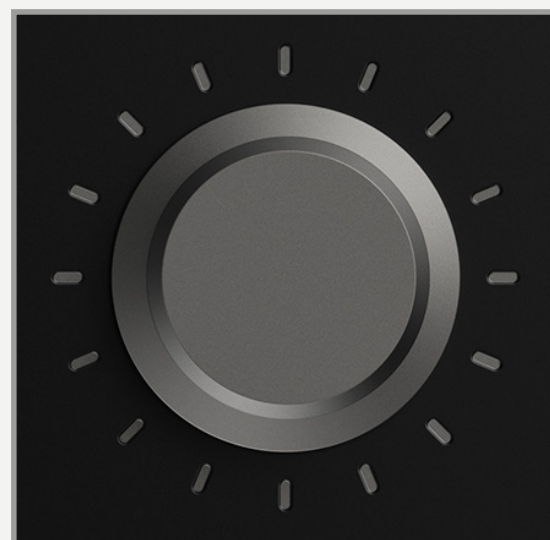
Monitor Mix ノブ

モニター再生するDAWのプレイバックMIX音とiD4mkIIへの入力音（マイク入力または楽器入力）をブレンドする機能です。

iD4mkIIの入力モニタリングを使用する場合は、DAW上のモニタリングをオフにしてください。この設置で、レイテンシーによる遅れで起こるモニターのダブリング現象が解消できます。

ノブの位置が完全にINPUT側に設定されると、入力信号のみをモニターすることができます。

LEDメーターは、上のラインが MIC/LINE入力のレベル、下がD.Iのレベルとして機能します。



Note

マイクの入力信号を同室内でスピーカーからモニターすると、フィードバックの原因になり、スピーカーの損傷を招く場合があります。スピーカーをミュートするか、モニターミックスノブをDAWに設定してください。

モニターパン

iD4のモニターパン機能を使えば、マイクプリとDI入力の両方を左右にパンニングできるため、自分に合ったバランスの取れたヘッドホンミックスを簡単に作成できます。ミュートボタンとiDボタンを押しながらボリュームエンコーダーを回すと、入力のパンニングが可能です。

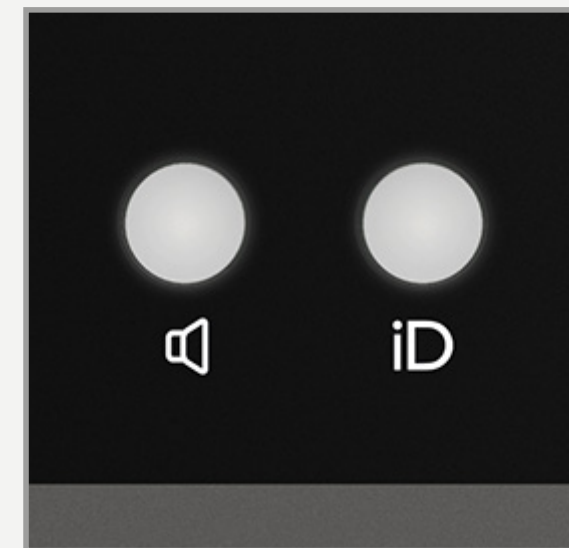
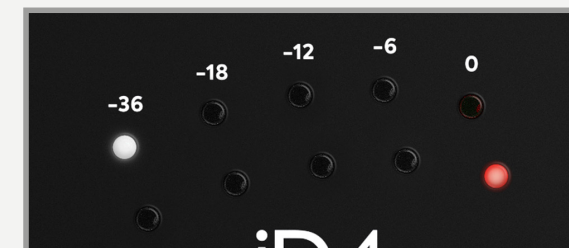
時計回りに回すとチャンネル1が左、チャンネル2が右にパンし、反時計回りに回すとチャンネル1が右、チャンネル2が左にパンします。ミュートボタンとiDボタンを押しながらエンコーダーを押すと、パンがリセットされます。

モニターのパンを調整すると、メーターにマイクとD.Iのパンポジションが表示されます。上のメーターにはマイク/ライン入力、下のメーターにはD.I入力が表示されます。

MUTE スピーカーボタン

MUTEボタンを押すとスピーカー出力がミュートされ、ヘッドホンへ切り替わりレコーディングモニターがスムーズに行えます。

マイクを用いてボーカルをレコーディングする際、スピーカーからモニター音が出力されているとフィードバックの原因になります。MUTEスイッチを押して、信号をミュートすることを推奨します。



iD ボタン

iDボタンを押すとScrollControlが起動し、エンコーダーがコンピューターの仮想スクロールホイールとして使用できます。これは、互換性のあるプラグインのパラメーターを操作したり、より直感的にオートメーションを追加したりするのに最適です。

iD *ScrollControl*

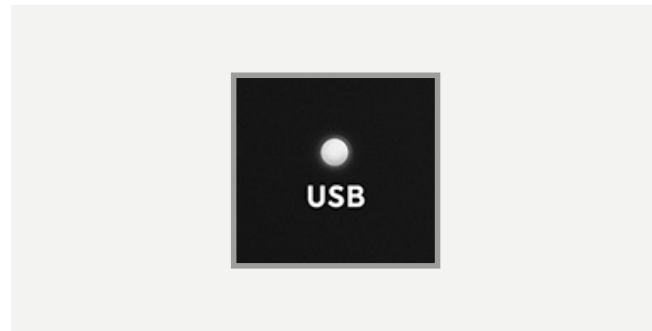
ScrollControlを使用するには、操作したい対象にマウスを合わせ、エンコーダーを回転させます。感度が高すぎる、または低すぎると感じた場合は、コンピューター側の設定でスクロール速度を調整してみてください。

プラグインやDAWによっては、マウスホイールによるスクロール動作の設定によって、ScrollControlの動作が若干異なる場合があります。また、一部のコントロールやソフトウェアではScrollControlをサポートしていない場合があります。

メーター

5段階のLEDメーターを搭載しています。このピークメーターは、信号レベルの表示をデジタルレコーディング用に合わせてあります。

ステータス LED



白いUSB LEDは、USB経由でデバイスとの接続を表示します。点灯している場合は、iD4とデバイス間の通信が安定していることを意味します。

Kensington ロック

iD4の側面にはケンジントン・ロック取付け用の穴があります。学校や設備で使用する際の盗難



ジェネラルオペレーション

このセクションでは、iD4mkIIの性能を最大限に引き出せるようなセッティングオプションを紹介します。

サンプルレート

プロジェクトを始める時、これから使うサンプルレートを決めることは大変重要です。サンプルレートは、入力信号を1秒間に何回「0」「1」のデジタル信号に標本化するかの値です。

CDやほとんどのダウンロードできる音楽のサンプルレートは44.1kHzです。48kHzはフィルムユースのスタンダードです。より高いサンプルレートは音質面のメリットはありますが、オーディオファイルのデータサイズが大きくなり、コンピューターのCPUの大きな負荷になります。

バッファサイズとレイテンシー

バッファサイズは、プロジェクトの円滑な進行に大切なセッティング要素です。間違ったバッファサイズの選択は、ポップやクリックノイズ、こもるようなオーディオの原因になります。バッファサイズは出力される前に書き込まれるサンプル数であり、バッファは信号の遅れ（レイテンシー）も追加します。しかし、これはコンピューターがプロセスするのに必要な時間なのです。

もし、あなたが iD4mkIIのMonitor Mixノブでダイレクトに入力信号をモニターしている場合、バッファサイズを比較的大きく設定できます（コンピューターの負荷を下げる）。

DAW経由でモニターしたい場合、例えば『アンプシュミレーターを使ったギターをモニターする。』時は、コンピューターがプロセスできる範囲で、そのサイズ設定を小さくします。この選択は、コンピューターのパワーとセッションのデータサイズに依存します。DAWによってはバッファサイズを下げられるように、トラックをフリーズする機能を備えているものもあります。

ミキシングでは、コンピューターのオーディオプロセスに時間を使えるように、バッファサイズをより高く設定てします。これによりレイテンシーは増えますが、この状況では問題にはなりません。大きなセッションデータのミックスには、大きなバッファサイズが必要なのです。

異なるサンプリングレートによるCPUへの負担かは、そのバッファサイズを調整する要因になります。

macOSの場合

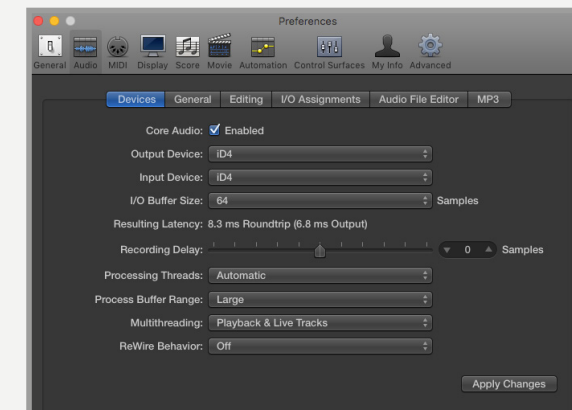
バッファサイズは使用するDAW側（オーディオセッティング、またはプリファレンスメニュー）で決定します。

iOSの場合

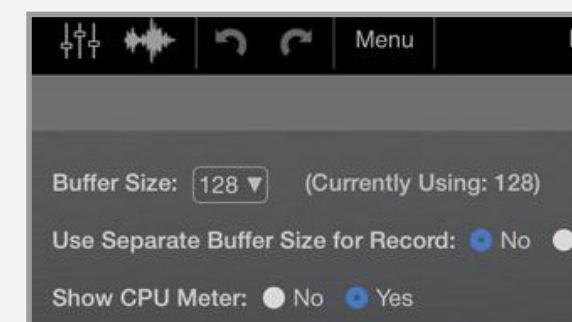
バッファサイズの設定は使用するアプリによって異なります。一般的にはアプリのプリファレンスセッティングメニューにあります。

Windowsの場合

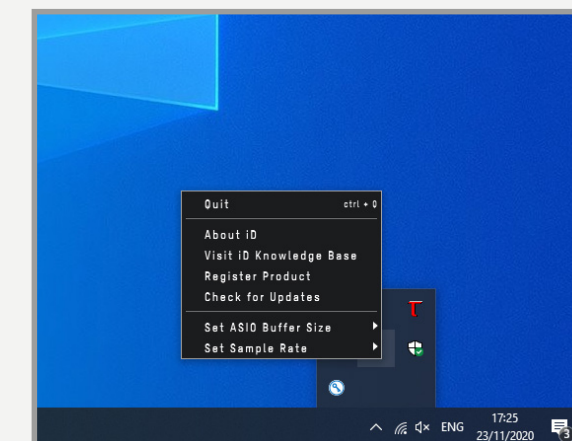
Windowsでは、DAWの前にiDアプリで選択します。バッファサイズは32サンプル～4096サンプルから選択できます。



* macOSでのLogic Pro Xバッファサイズのセッティング



* iOSでのAuria Proバッファサイズのセッティング



オーディオ・ループバック

あるアプリケーションから別のアプリへオーディオをループできるようにするために、iD4のソフトウェアにはオーディオループバックミキサーが含まれています。



これにより、マイク入力とDI入力、そしてコンピューターの再生音を、各チャンネルのフェーダーを上げてミックスして、ステレオミックスにまとめることができます。このステレオフィード/ミックスは、録音またはストリーミング配信が可能です。チャンネルは以下の通りです。

マイク1 - iD4リアパネルのマイク入力からの信号

マイク2 - iD4フロントパネルのDIからの信号

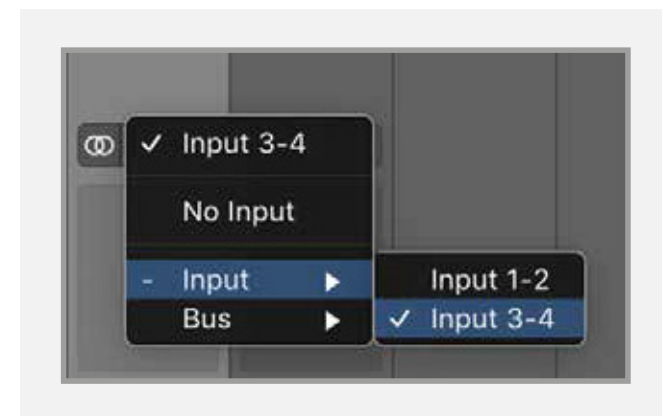
メイン出力1/2 - ヘッドフォン出力とスピーカー出力から再生されているオーディオ。

これは、DAWの出力1+2に送られているオーディオです。

ループバック1/2 - iD4専用のループバック出力。再生音に影響を与えることなくオーディオをループ再生できます。これは、DAWの出力3+4に送られるオーディオです。

オーディオループバックミックスの使用

ループバックミックスを録音またはストリーミングするには、オーディオソフトウェアで入力3+4またはループバック1+2を選択します。表示される入力名は、DAWまたはオーディオソフトウェアによって異なります。



お使いのソフトウェアでループバックミックスを設定する方法がわからない場合は、ソフトウェアのマニュアルで詳細をご確認ください。通常は設定パネルに記載されています。

ループバック出力へのオーディオの送信

ほとんどのDAWやオーディオソフトウェアでは、オーディオ設定またはミキサーでオーディオ出力が選択できます。

繰り返しになりますが、設定方法の詳細については、お使いのソフトウェアのマニュアルまたはドキュメントをご確認ください。

ただし、このオプションが利用できないアプリケーションの場合は、システム設定を調整するだけで済みます。

MacOS

出力チャンネルの調整は、Audio MIDI設定ユーティリティを起動します。このユーティリティは、以下の場所にあります。

Finder > アプリケーション > ユーティリティ > Audio MIDI設定

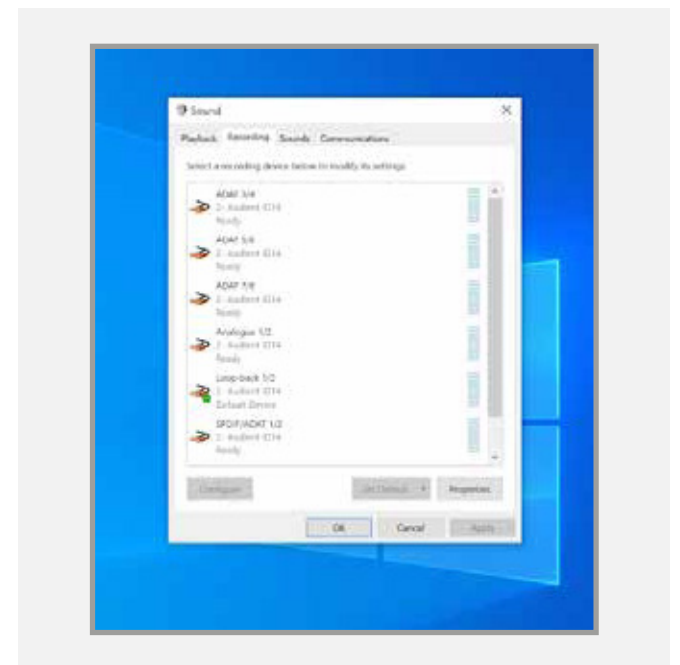
Macに接続されているオーディオデバイスのリストが表示されます。iD4を選択し、「Output/出力」パネルで「Configure Speakers/スピーカーを設定」をクリックします。出力をループバック1とループバック2に設定します。



「Apply/適用」をクリックします。これですべてのオーディオがメイン出力ではなくループバックチャンネルに送られ、他のアプリケーションへ送れるようになります。

Windows

Windowsでは、「Control Panel/コントロールパネル」の「Sound/サウンド」設定で出力チャンネルを簡単に変更できます。「Playback/再生」デバイスリストに移動し、出力デバイスとして「Loop-back 1+2/ループバック1+2」を選択してください。



DAW セットアップ

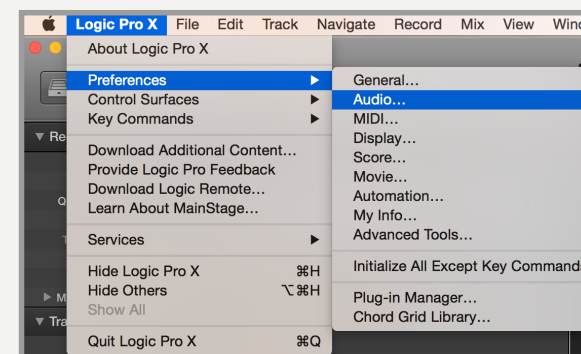


Logic Proの設定

Logic Proと使用する場合

iD4mkIIをMacと接続してLogicProを立ち上げ、パソコン上でiD4mkIIが出力・入力デバイスに選ばれていることを確認してください。

Logic Pro > Preferences > Audio



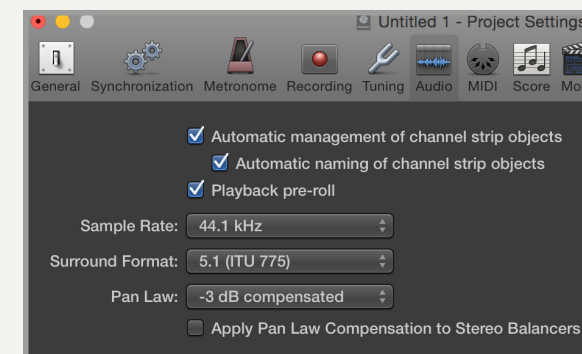
セッションを適切なバッファースイズに設定してください。出力のモニター用にMonitor Mixノブを使用して、バッファースイズをコンピューターに負荷がかからない程度の適切なレベルに設定します。再生時に不安定になったり、エラーが起こる場合はバッファースイズを上げてみてください。



既存のセッションを開くとiD4mkIIのサンプルレートは自動でそのプロジェクトに合うように変更されます。

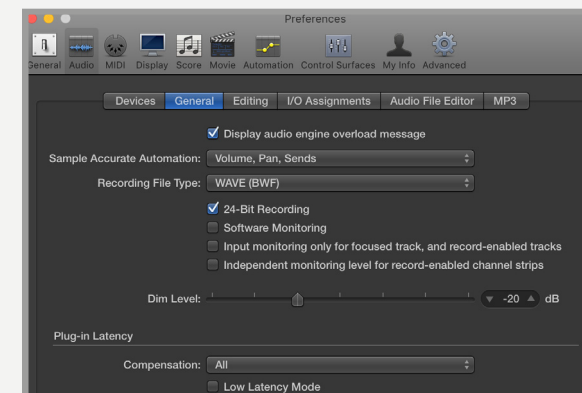
新たにセッションを開始する場合、適切なサンプルレートを選んでください。

File > Project Settings > Audio



もしiD4mkII上で出力をモニターする場合、重複再生を避けるため、Logic上でのモニタリングは出来ません。

Logic Pro > Preferences > Audio > General > Software Monitoring



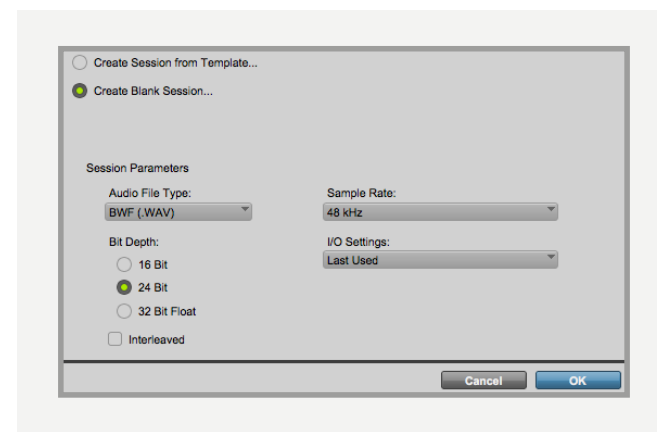


Pro Toolsの設定

Pro Toolsと使用する場合

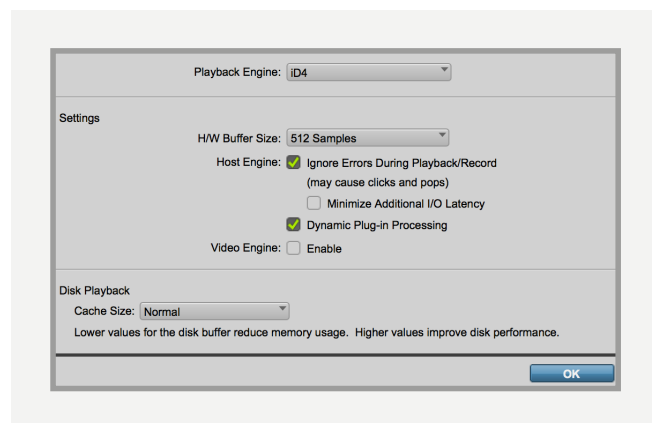
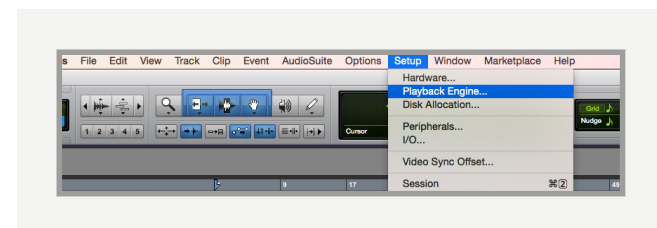
Windowsを使用している方は、インストールセクション（オーディオデバイスとしての設定）の設定を確認してください。インストールが完了したら、ProToolsを起動してサンプルレートの設定を確認してください。外部クロックを使用する場合、両方のサンプルレートを同一値に設定します。

Windows版をご使用の場合は、プロジェクトを開く前に、必ずiDアイコンよりレイテンシーとバッファサイズの設定を忘れないでください。これらの設定がProTools起動時に反映されます。

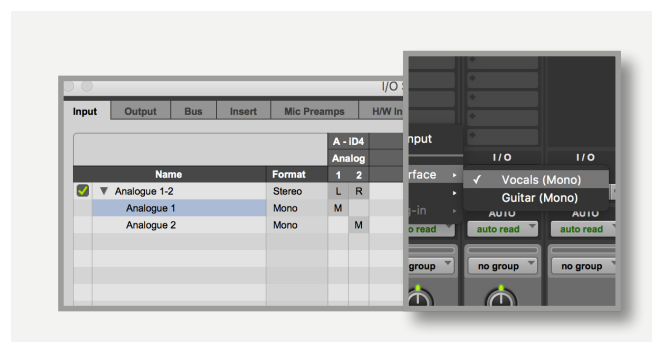


プレイバックエンジン

Setup > Playback Engineで、プレイバックエンジンの設定に進みます。



I/Oセットアップ: セットアップからI/Oへ進みます。上記設定画面で、入力と出力の設定を行います。iD4mkIIの2入力/2出力が正しくルーティングされていることを確認してください。



もしiD4mkIIのMonitor Mixノブを使ってモニターする場合、オーディオトラックの入力モニターボタンが選択されていないことを確認して、信号の重複を避けてください。



※その他の設定に関しては、ProToolsの取扱説明書をご参照ください。

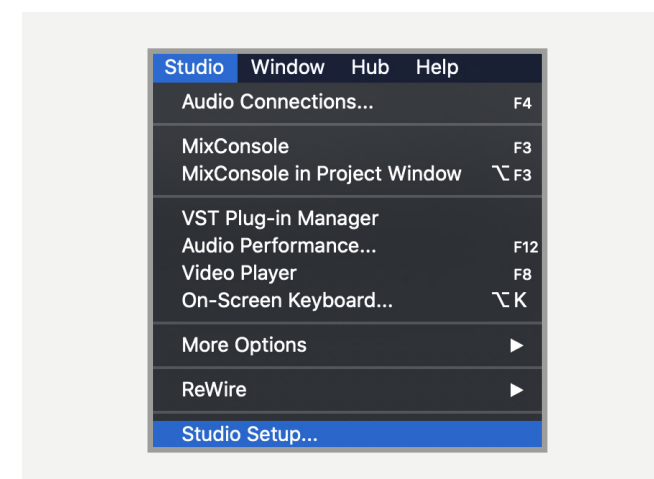


Cubase/Nuendoの設定

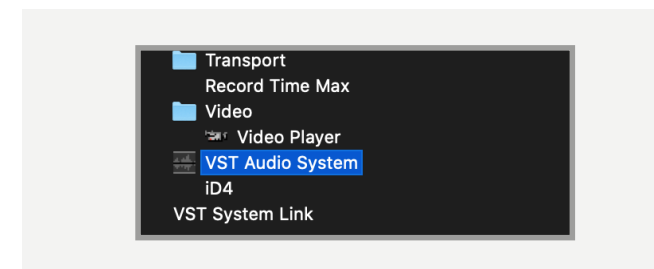
Cubase / Nuendoと使用する場合

Windowsを使用している方は、インストールセクション（オーディオデバイスとしての設定）の設定を確認してください。インストールが完了したら、Cubase or Nuendo を起動してデバイスメニューに入ります。

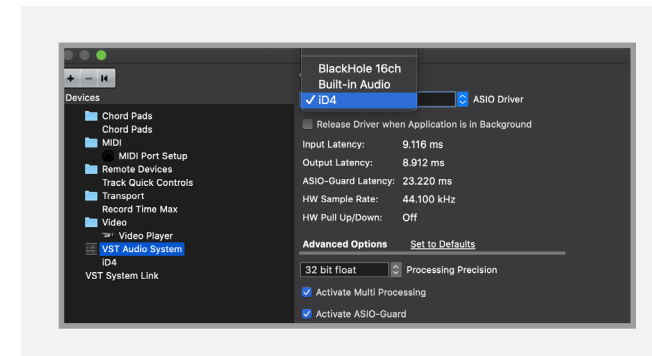
Studio > Studio Setup



図のようにデバイスメニューからVSTAudio Systemを選びます。



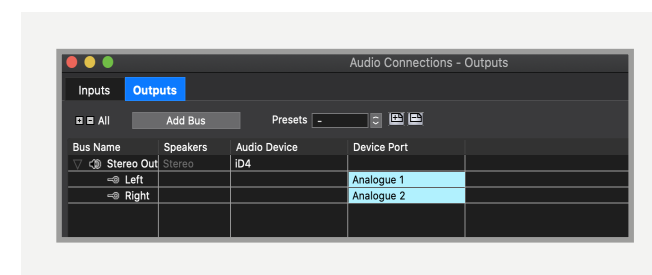
iD4mkIIがオーディオデバイスに選ばれていることを確認してください。「Switch」のメッセージをクリックしてください。



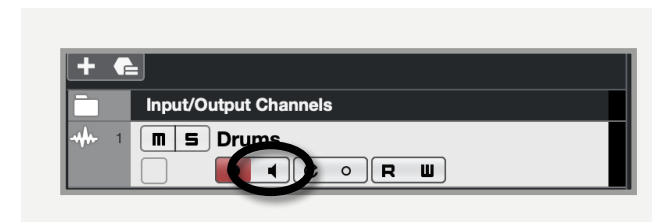
VSTデバイスセットアップパネルを閉じ、オーディオ接続パネルへ移ります。

Devices > Audio Connections (F4)

Cubase / Nuendo中に作られた全バスを確認してください。それら全てのポートはセッションで使用できます。必要であればそれらをI/Oに割り当ててください。



iD4mkIIのミキサーアプリで入力をモニターしているのであれば、トラックの入力モニターはオフになっていることを確認してください。



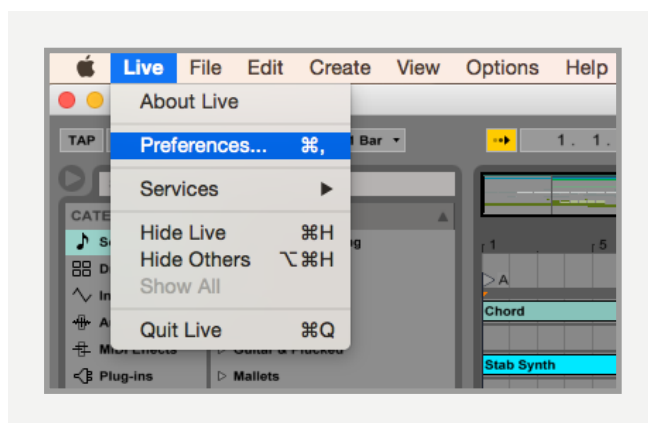


Ableton Liveの設定

Ableton Liveと使用する場合

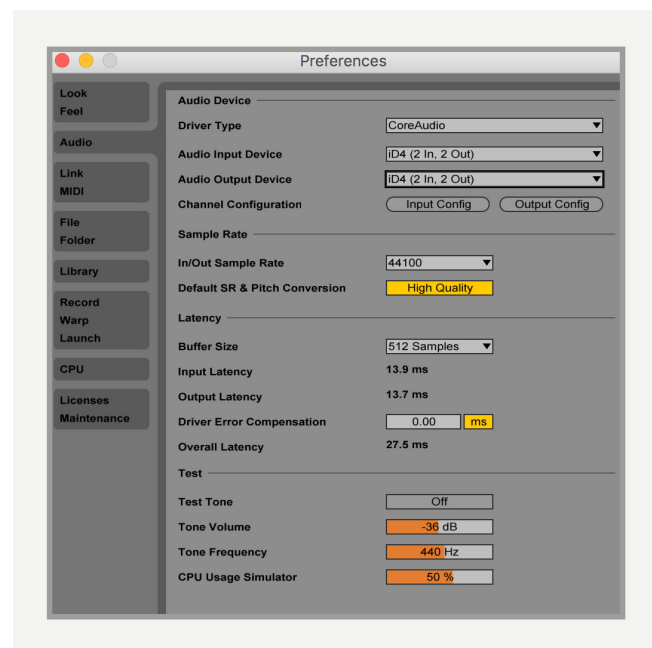
Windowsを使用している方は、インストールセクションの設定（オーディオデバイスとしての設定）を確認してください。インストールが完了したら、Ableton Liveを起動してデバイスメニューに入ります。

Live > Preferences > Audio

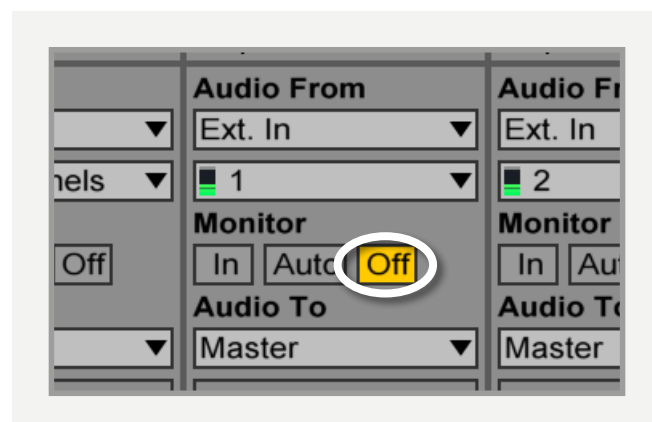


iD4mkIIがオーディオデバイスに選ばれていることを確認してください。また、適切なサンプルレートとバッファサイズも設定してください。

Windowsユーザーは、Ableton内で変更する前に、iD System Trayでバッファサイズとレイテンシーを設定します。（iD4mkIIは10-in、4-outデバイスとしてLiveに認識されていることを確認してください。）



iD Mixerで入力信号をモニターしている場合は、コンピューターの負荷を軽減するために、バッファサイズは比較的高く設定できます。このケースでは、Ableton側のトラックの入力モニタリングをオフにします。



※その他の設定に関しては、Ableton Liveの取扱説明書をご参照ください。

トラブルシューティング & FAQ

トラブルシューティング

本機に電源が入らない。

USBケーブルが正しく接続されているか確認してください。お使いのPC/MACのUSB給電仕様や、USBハブや接続ポートを再確認してみてください。

DAWの再生時にクリックやポップノイズが出る。

まず、設定されているバッファサイズの値が小さすぎることが考えられます。また、使用しているプラグインやソフトシンセ等が多すぎること考えられます。レコーディング時は、レイテンシーを少なくするためにバッファサイズ小さく設定しがちですが、ミックス時はその必要はありません。

iD4mkIIをコンピューターに接続すると、本機からオーディオが再生できない。

まず、iD4mkIIとコンピューター間のUSBケーブル接続を再確認してください。さらに、iD4mkIIがDAWの再生デバイスに設定されているかの確認も必要です。

システムプリファレンス > サウンド > 出力タブ > Audient iD4 (macOS)

コントロールパネル > ハードウェアとサウンド > サウンド > サウンドデバイスを管理する > Audient iD4 (Windows)

最後に、モニターミックスノブをDAWにセットします。



大きな音のフィードバックが起きます。

同室内あるスピーカーでマイクロフォン入力をモニターしていませんか？ モニターミックスノブをDAWにするか、スピーカーをミュートしてヘッドフォンでモニターしてください。

レコーディング時に残響音が聞こえます。

iD4mkIIのゼロレーテンシーでモニターしながらDAWで入力信号をモニターしていませんか？ モニターミックスのセクションを参考にしてください。

FAQs

その他のFAQについては
<https://allaccess.co.jp/audient/>
をご覧ください。

製品仕様



D.I / インストルメント入力

ゲインレンジ:	40dB
フルスケールレベル:	12dBu = 0dBFS
THD+N @ 0dBu:	0.1%
SNR:	100dBu (A-特性負荷)
周波数特性 – 最小ゲイン:	±0.5dB 10Hz to 20kHz

ADコンバーター

THD+N @ -1dBFS:	0.001%
ダイナミックレンジ:	120dB (A-特性負荷)
周波数特性:	±0.5dB 10Hz to 40kHz

ライン出力 (DAC)

フルスケールレベル:	12dBu = 0dBFS
THD+N @ -1dBFS:	0.0006%
ダイナミックレンジ:	125.5dB (A-特性負荷)
クロストーク:	>120dB
周波数特性:	±0.1dB 10Hz to 40kHz
1/4"TRS ジャック:チップ (L)、リング (R)、スリーブ (シールド)	

ヘッドフォン出力 (Measurements with 100k load)

フルスケールレベル:	18dBu = 0dBFS
THD+N @ -1dBFS:	0.0009%
ダイナミックレンジ:	125.5dB (A-特性負荷)
クロストーク:	>116dB
周波数特性:	±0.1dB 10Hz to 40kHz
最大レベル @ 30Ω:	2.59V Peak, 1.827V RMS, 223mW
最大レベル @ 62Ω:	4.18V Peak, 2.95V RMS, 280mW
最大レベル @ 600Ω:	7.72V Peak, 5.46V RMS, 100mW
1/4"TRS ジャック:チップ (L)、リング (R)、スリーブ (シールド)	

マイクロフォンプリアンプ

ゲインレンジ:	58dB
フルスケールレベル:	12dBu = 0dBFS
MIC 最大入力レベル:	12dBu
最大入力レベル:	21dBu
入力インピーダンス (Mic):	2.8k
入力インピーダンス (Line):	>8k
THD+N @ 0dBu:	0.00170%
THD+N @ 0dBu:	最大ゲイン <0.04%
SNR:	101dBu (A-特性負荷)
EIN:	129dB (A-特性負荷)
CMRR @ 1k:	>75dB
周波数特性 – 最小ゲイン:	±0.5dB 10Hz to 40kHz

USB-C ハイスピード

バスパワー	
最低位スペック:	0.9A @ 5V >=USB 3.0 Port
最高位スペック:	1.5A @ 5V
入力チャンネル数:	2 (2 アナログ)
出力チャンネル数:	2 (2 アナログ)

DSP ミキサーレイテンシー:	ビット毎の往復時間
44.1kHz	0.65mS
48.0kHz	0.6mS
88.2kHz	0.33mS
96.0kHz	0.31mS

品質保証に関して

本機は、audient日本総代理店 オールアクセスインターナショナル株式会社が、購入後1年以内の品質保証を行っております。修理の際は、購入時の保証書（購入期日及び販売店捺印必須）を提示の上、ご購入の販売店に御依頼ください。保証書の提示が無い場合、保証内であっても1年以内の保証の対象にはなりません。

本書に記載された文章、図版、作品は、全て「著作権」及び、それに付随する「著作隣接権」等の諸権利を保有しています。弊社では内容を理解することを目的とする使用方法のみを許諾しております。

▲ 警告:安全のため、特に注意していただくこと

- 1.異常があるときは、電源プラグをコンセントから抜いてご購入先もしくは、弊社迄ご連絡ください。異常な音がしたり煙が出て異臭がした時などは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 2.電気ショックを避けるため、本体を絶対に開けないでください。内部に触ると感電する恐れがあります。内部の調整や修理は、弊社にご依頼ください。また、火事や感電を避けるために、湿度が非常に高い場所に置いたり、雨天の際に野外で使用することは避けてください。

▲ 警告:次のような場所での使用はできる限り避けてください。

- 湿度の非常に高い場所
- 砂やほこりが多い場所
- 台所、バスルーム、湿気の多い地下室など、水のかかりやすい場所
- 空気の循環を妨げる場所、ヒーターの近くや温度が高い場所

■ 取り扱いについて乾いた柔らかい布のみを使用して、外装をきれいに保ちましょう。

■ サービスについて

このマニュアルに記載されていない操作や取り扱いは行わないでください。記載外の使用方法で本機を使用されますと製品不良が発生する場合があります。必ず本書に基づいた使用方法で使用してください。

記載外の使用方法による破損や修理は、保証期間中の機器であっても保証対象外になります。本体の取り扱いは慎重に行ってください。万が一、負傷された場合でも弊社では一切の責任を負いません。

修理が必要な場合は、購入先もしくは弊社へ（メールのみの対応です。）ご連絡ください。

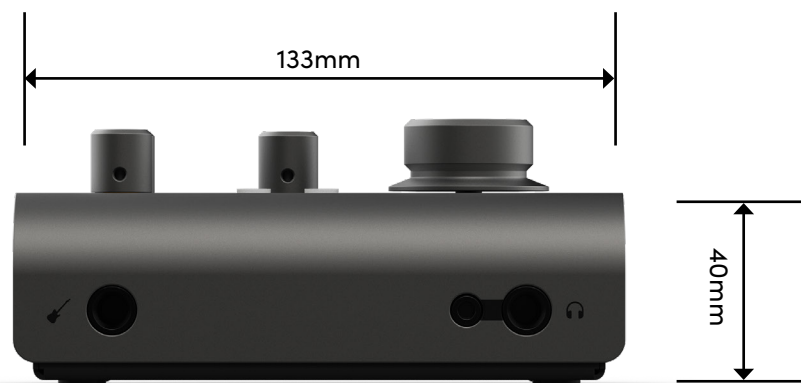
Web：<https://allaccess.co.jp>

Mail：audient@allaccess.co.jp

サイズ・重量



Weight: 1.0kg



Weight: 1.0kg

AUDIENT

audient 日本輸入総代理店
オールアクセスインターナショナル株式会社
WEB : <https://allaccess.co.jp/audient/>
E-mail : audient@allaccess.co.jp
〒490-1116 愛知県あま市本郷三反地21番地